

**在スロバキア日本国大使館**  
**政治・経済月報（2021年11月）**

目 次

**新型コロナウイルス**

- ◆ 11月30日現在の感染情報等 . . . . . 2
- ◆ 新規感染者の急増 . . . . . 2
- ◆ 緊急事態宣言の発令、全住民対象の外出禁止令の導入 . . . . . 2
- ◆ 職場でのO T P制度導入 . . . . . 3
- ◆ オミクロン変異株流入阻止に向けた政府措置 . . . . . 3

**内 政**

- ◆ 政党支持率調査結果 . . . . . 4

**外 政**

- ◆ チャプトヴァー大統領のC O P 2 6出席 . . . . . 5
- ◆ ヘゲル首相のA S E M首脳会合出席 . . . . . 5

**経 済**

- ◆ 「国家水素戦略のための行動計画」の一部内容の発表 . . . . . 6
- ◆ スロバキアから中国への貨物列車を利用した飲料水輸出 . . . . . 7
- ◆ 台湾とスロバキア等による半導体分野での協力の可能性 . . . . . 7
- ◆ スロバキア国立銀行経済・金融動向レポート（第3四半期） . . . . . 7

別添：主要経済指標

※ 本月報は公開情報を在スロバキア日本国大使館がとりまとめたものです。

## 新型コロナウイルス

### ◆11月30日現在の感染情報等

(1) 11月のPCR検査に基づく新規感染者数は19万7989人(10月は7万1906人)、11月の死者数は1458人(10月は396人)。

(2) 11月30日現在のPCR検査に基づく累積感染者数は68万9618人(前日比+9534人)。11月30日のPCR検査件数は2万8373件。

(3) 11月30日現在の累積死者数は1万4503人(前日比+85人)。

(4) 11月30日現在の1回目のワクチン接種者数は264万3071人(前日比+3009人)。完全接種者数は247万4024人(前日比+1577人)(人口の約45%が接種済み)。

### ◆新規感染者の急増

(1) 英オックスフォード大学の研究者が運営する統計サイト「Our World in Data」によれば、11月16日以降、スロバキアは、人口100万人以上の国の中で、人口100万人あたりの新規感染者数(7日間移動平均)が世界ワースト1位であり続けている(11月30日現在)。11月30日現在のスロバキアの人口100万人あたりの新規感染者数(7日間移動平均)は2027人で、2位のチェコ(同1757人)を大きく上回っている。

(2) 11月23日、スロバキアの1日あたり新規感染者数が初めて1万人を突破した(1万315人の新規感染者を確認。PCR検査結果に基づく)。死者数も増加傾向にあり、12月1日、感染第三波で最多となる1日あたり103人の死者が確認された。

(3) 医療監視機関(UDZS)によれば、スロバキアの新型コロナウイルス感染症による10月の死者数は429人であり、そのうち369人(86%)がワクチン未接種者、54人が1回目接種者、7人が完全接種者であった。

### ◆緊急事態宣言の発令、全住民対象の外出禁止令の導入(11月24日付政府布告)

11月25日から90日間、緊急事態宣言を発令する。また、11月25日から最長で12月9日まで、午前5時から翌午前1時までの間、スロバキア全域で外出禁止令を導入する。ただし、通勤、ビジネスのための移動、通園、通学、生活必需品の確保、生活に必要なサービスを受けるための外出、通院、犬及び猫の散歩(居住地から500m以内に限る)、外国への出国、外国からの帰国、居住郡内(ただし、ブラチスラバ市に居住する場合はブラチスラバ県内。コシツェ市に居住する場合はコシツェ1~4郡及びコシツェ・オコリエ郡

内)における自然の中での滞在、自然の中での個人スポーツ等は外出禁止令の例外である。

#### ◆職場でのO T P制度導入(11月24日付公衆衛生局布告)

(1) 職場において、以下の者をO T P該当者として定義する。

ア ワクチン完全接種者(ockovana)。

イ 検査後7日以内のコロナ検査(PCR検査、LAMP検査、抗原検査、鼻腔ぬぐい検査等)の陰性証明書を提示できる者(Test)。

ウ 新型コロナウイルス感染症が治癒してから180日以内の者(Prekonana)。

(2) 本布告において、以下に該当する者は「ワクチン完全接種者」として認められる。

ア 2回接種型(注:アストラゼネカ製、モデルナ製、ファイザー/ビオンテック製、スプートニクV)の2回目の新型コロナウイルスのワクチン接種を受けてから14日間以上経過し、かつ最後に接種した日から1年以上経過していない者。

イ 1回接種型(注:ジョンソン&ジョンソン製)の新型コロナウイルスのワクチン接種を受けてから21日間以上経過し、かつ最後に接種した日から1年以上経過していない者。

ウ 新型コロナウイルス感染症が治癒してから180日以内に1回目の新型コロナウイルスのワクチン接種を受けて14日間以上経過し、かつ最後に接種した日から1年以上経過していない者。

(3) 雇用者に対して、O T P該当者のみの出勤を許可するよう命じる。他者と接触しない業務に従事している者については本措置の対象外。

#### ◆オミクロン変異株流入阻止に向けた政府措置

【アフリカ7か国からの民間機発着停止(11月27日付TASR通信)】

交通・建設省は、スロバキアがアフリカ7か国(エスワティニ、ジンバブエ、ナミビア、ボツワナ、南アフリカ、モザンビーク、レソト)との間の民間機発着を12月13日まで停止すると発表した。交通・建設省は、「スロバキアは、同7か国との間で定期直行便を就航していないが、欧州委員会による運航停止勧告に賛同している。運航停止措置は、ビジネス目的の民間機やプライベート・ジェット等の不定期便が対象となる」とコメントした。

【リスク国に滞在歴がある者に対する公衆衛生局への通知要請(11月27日付公衆衛生局プレスリリース)】

直近14日間でイスラエル、エスワティニ、ジンバブエ、セーシェル、ナミビア、ボツワナ、香港、南アフリカ、モザンビーク、レソトに滞在歴がある者に対し、速やかに公衆衛生局へ通知するよう要請する。（当館注：公衆衛生局によれば、11月28日午後6時現在、70名が同局に通知した。12月1日現在、スロバキアではオミクロン変異株は未確認。）

【12月1日以降の検疫措置（11月29日付公衆衛生局布告）】

12月1日以降、過去14日間以内にイスラエル、エスワティニ、ジンバブエ、セーシェル、ナミビア、ボツワナ、香港、南アフリカ、モザンビーク、レソトに滞在していた者がスロバキアに入国する場合、以下のいずれかの検疫措置が義務づけられる（ワクチン接種の有無に関わらず、全ての者が対象）。同居する者に対しても、同期間の自主隔離を義務づける。

- (1) (PCR検査を受けずに) 入国後に14日間の自主隔離。
- (2) 入国後にPCR検査を2回実施し、それぞれ陰性結果が出るまで自主隔離。1回目のPCR検査は自主隔離1日目以降に、2回目のPCR検査は自主隔離8日目以降に実施すること。
- (3) 12歳2か月未満の子供は、(PCR検査を受けずに) 同居する者と同期間自主隔離。

**内 政**

◆政党支持率調査結果（11月29日）

世論調査機関Focusによる政党支持率調査の結果は以下のとおり（括弧内は支持率に基づいた議席数）。Hlas-SDが1位、Smer-SDが2位を引き続き維持している。

政党	Focus	2020年選挙
Hlas-SD（声・社会民主主義）	19.2%(36)	—
Smer-SD（方向・社会民主主義）	15.0%(28)	18.29%
SaS（自由と連帯）	11.5%(22)	6.22%
OLaNO（普通の人々・独立した人達）	7.9%(15)	25.02%
PS（プログレッシブ・スロバキア）	7.7%(14)	※6.96%
Republika（共和国）	6.8%(13)	—
Sme rodina（我々は家族）	6.1%(11)	8.24%
KDH（キリスト教民主運動）	6.1%(11)	4.65%
LSNS（我々のスロバキア）	4.8% (-)	7.97%
Aliancia（同盟）	4.4% (-)	—
SNS（スロバキア国民党）	3.6% (-)	3.16%

Za ludi (人々のために)	2.1% (-)	5.77%
------------------	----------	-------

※PS/Spolu としての得票率。PS は、2020 年国会総選挙に Spolu(共に)と政党連合を形成して参加した。

## 外 政

### ◆チャプトヴァー大統領のCOP26出席（10月31日～11月2日付大統領府プレスリリース）

10月31日、チャプトヴァー大統領は、11月1～2日に開催される国連気候変動枠組条約第26回締約国会合（COP26）に出席するため、英国のグラスゴーに出発した。チャプトヴァー大統領は、カーボンフットプリントを削減するため、政府専用機ではなく商用機を使用した。

11月1日、チャプトヴァー大統領は、COP26において、チャールズ英皇太子と会談を行い、両国の気候保護に向けた取り組みや、気候危機に対する若者等の懸念について話し合った。双方は、気候保護はコスト増加を意味するだけでなく、大きな経済的な機会に結びつき得るとの点で一致した。

11月2日、チャプトヴァー大統領はCOP26で演説を行い、「気候変動対策は1か国の取り組みだけでは不十分である。EUも気候変動対策のための責任を有しているが、EUだけでなくその他の先進国による国際的な努力も必要である。今会合に首脳が参加しなかった国々も含め、全員が公正に気候変動対策に貢献すべきである」と述べた。

チャプトヴァー大統領によれば、スロバキアの温室効果ガスは1990年と比較して43%削減され、メタンの排出量は同50%以上削減された。スロバキアでは、既に80%の電力が低炭素電力によって占められており、2023年以降は発電のために石炭を利用しない予定である。スロバキアが受領する欧州復興基金の43%は、交通、産業、建物における持続可能なグリーン・トランスフォーメーションのために利用される。

### ◆ヘゲル首相のASEM首脳会合出席（11月26日付首相府プレスリリース）

11月26日、ヘゲル・スロバキア首相は、第13回アジア欧州会合（ASEM）首脳会合にオンラインで出席し、「ここ10年間、国際政治の地政学的・経済的重心が段階的にインド太平洋地域に移動している。スロバキア及びEUは、アジア諸国とのより密接な協力を必要としており、9月に採択された『インド太平洋における協力のためのEU戦略』を歓迎する」と述べた。

ヘゲル首相は、ASEM間の経済協力について、「欧州とアジアは、平等と相互尊重に基づくポスト・コロナ後の経済発展の基盤を形成する能力を有して

いる。両地域の結びつきを強化する必要がある、環境への負荷を最小限に抑えることに主眼を置いた鉄道輸送の発展に関心を有している」と述べるとともに、「スロバキアにとって、半導体等の自動車産業用部品や薬剤及び医療物資等の戦略的商品の供給多様化が重要である。アジアからの潜在的な投資に着目している」と付言した。

スロバキアは、国際法及び人権保護等の国際システム擁護の原則に基づくアジア諸国に対するEU共同戦略目標の実現に貢献するつもりである。ヘゲル首相は、「スロバキアは、法の支配、透明性、汚職対策の強化のための改革に関する経験を共有できる」と述べた。

## 経 済

### ◆「国家水素戦略のための行動計画」の一部内容の発表（11月5日付経済新聞）

11月3日、国家水素連合（経済省管轄）は、ドバイ万博において、2021年末までに策定予定の「国家水素戦略のための行動計画」の一部を紹介した。同計画によれば、スロバキアは2030年までに、グリーン水素及びブルー水素の消費量を2万5000トンまで引き上げる。そのうち、エネルギー部門が4000トンを利用し、鉱工業部門が1万4000トンを利用する。残りの7000トンは、交通部門によって利用され、12両の水素列車、200台の水素バス、7500台の水素自動車、800台のその他水素車両が導入される。

同計画によれば、スロバキアは国内の水素需要を満たすために、2030年までに国内で年間2万5000トンの水素を製造する。そのうち、1万トンは、水の電気分解によって製造されるが、そのためには計100メガワットの水電解装置と300メガワットの再生可能エネルギーが必要となる。残りの1万5000トンについては、廃棄物やバイオマスを発酵又は化学分解して製造されるブルー水素によって占められる。また、炭素を吸収する技術を用いて化石燃料から水素を製造することも検討されている。

同計画によれば、2050年までのカーボン・ニュートラルを達成するためには、国内エネルギー消費の25～30%を水素エネルギーで占める必要があり、年間水素製造量を60万トンに引き上げなければならない。同時に、天然ガスによって製造されるグレー水素を、グリーン水素又はブルー水素に切り替えていく必要がある。

#### ◆スロバキアから中国への貨物列車を利用した飲料水輸出（11月15日付TASR通信）

11月15日、スロバキア西部ドゥナイスカー・ストレダ（トルナバ県）の貨物ターミナルから、スロバキアの飲料水メーカー「Budis」の乳児用飲料水736トン積載した貨物列車が中国に向けて出発した。通常、EUから中国への飲料水の輸出には貨物船が利用される。スロバキアの飲料水が貨物列車を利用して中国に輸出されるのは初めてのことであり、画期的なことである。

同日にドゥナイスカー・ストレダの貨物ターミナルで行われた記者会見には、Budis社の代表者や貨物ターミナルの運営責任者の他、クメチ副交通・建設相、フラプコ・スロバキア交通・建設省戦略交通部長が出席した。クメチ副交通・建設相は、「鉄道は環境に優しい交通手段である。この契約（貨物列車を利用した飲料水輸出）は、鉄道がスロバキア経済に寄与するだけでなく、（温室効果ガス）排出量削減にも貢献できることを示している」と述べた。

フラプコ部長は、「中国企業は、年間1万5000両運行されている中国・EU間の貨物列車の一部をスロバキア経由で運行させることに大きな関心を有している。スロバキア経由の貨物列車の運行は、交通・物流分野だけでなく、スロバキアにおけるビジネスの更なる発展に寄与することになる」と述べた。

#### ◆台湾とスロバキア等による半導体分野での協力の可能性（11月25日付経済新聞電子版）

11月25日、キョウ明キン（Kung Ming-hsin）台湾「国家発展委員会主任委員」は、「半導体生産に関し、スロバキア、チェコ、リトアニアとの協力を検討している」と述べた。10月にスロバキア、チェコ、リトアニアを歴訪したキョウ「主任委員」は、同3か国が半導体分野における台湾との協力に関心を有している旨付言した。

キョウ「主任委員」は、「同3か国と作業部会を設置し、半導体分野での協力戦略を策定する予定である。技術訓練のための奨学金も提供する」と述べるとともに、「半導体のサプライチェーンは巨大であり、多くの国が異なる役割を果たすことができる」と付言した。

EUは、半導体をEU域内で生産するために、台湾積体回路製造（TMS C）等の台湾企業の誘致を試みている。

#### ◆スロバキア国立銀行経済・金融動向レポート（2021年第3四半期）

##### 1 主要経済指標

（1）経済成長率は、前期比で2.0%の増加。ロックダウンにより抑圧されていた消費者の反動需要で生じた国内消費により、経済成長が牽引された。

(2) 鉱工業生産は、半導体不足による一時的な生産停止があったにも関わらず、第2四半期は年率35.9%と好調な伸びを見せた。

(3) 投資は主に政府部門(軍備支出や鉄道車両近代化等)が牽引したが、民間企業は引き続き投資に慎重な姿勢を見せている。

(4) 規制緩和による企業の求人数は過去最高水準であるものの、失業率は約7%と横ばいであった。

## 2 中期経済予測

### (1) GDP

スロバキア経済は、2021年に3.5%、2022年に6.3%、2023年に4.5%とそれぞれ前年比で成長する見込み。経済がパンデミック以前に戻るのには時間がかかるとみられており、主な要因は第三波の到来と半導体供給不足によるものである。

### (2) 労働市場

雇用率はパンデミックの第三波と半導体供給不足により今後数ヶ月は伸びが鈍化するものの、これらが緩和されることにより、労働市場環境は改善に向かうと予想される。名目賃金は熟練労働者不足と各種物価上昇の影響により、今後も顕著に上昇することが予測される。

### (3) 物価

消費者物価指数は上昇局面となっており、2022年初頭には5%に達する見込み。エネルギー商品価格の急激な上昇により、電気料金が13%、ガス料金が10%上昇すると予想されている。

### (4) 貿易及び外需

スロバキアの輸出に対する外部需要は、2021年には10.1%増加する見込み。その後、2022年に6.4%、2023年には3.8%と緩やかに成長すると予測される。

(了)



# スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

